

シーニックバイウェイ北海道の今年度の取組状況

シーニックバイウェイ北海道推進協議会

令和2年11月13日



1. 会議・委員会の開催状況



Scenic Byway HOKKAIDO

① 第21回ルート審査委員会

- 日時：令和2年6月30日(火) 9:30～11:15
- 場所：新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として**初のオンライン開催**
(事務局) 一般社団法人北海道開発技術センター

議事内容

- (1) 令和2年度活動計画案について
- (2) ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2019について
- (3) 「秀逸な道」の試行結果と本格運用について



上段左から、推進協議会事務局、臼井委員
中段左から、石山委員、小林委員長、石田委員
下段、高野委員



▲オンライン会議の様子

審査結果

- (1) ルート視察を翌年度に延期することを了解
- (2) ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2019部門賞、最優秀賞を選出
- (3) 「秀逸な道」の本格運用を進めていくことを確認

※石田委員よりご意見

⇒ 移動、観光、自然について、長期的な観点からシーニックに関する議論をする場が必要ではないか。

ご意見を受け、【座談会】『シーニックバイウェイ2040～北海道の未来につなぐもの～』を10月15日に開催 2

1. 会議・委員会の開催状況



Scenic Byway HOKKAIDO

②令和2年度全道ルート代表者会議

- 日時：令和2年7月1日(水) 14:30～17:00
- 場所：新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として**初のオンライン開催**
〈推進協議会事務局〉一般社団法人北海道開発技術センター 中会議室

議事内容

- (1) 令和2年度年間スケジュールについて
- (2) 「秀逸な道」の試行結果と本格運用について
- (3) 地域の現状や今後の活動等について【意見交換】
- (4) その他

令和2年度年間スケジュール及び「秀逸な道」の試行結果と本格運用について事務局より説明後、コロナ禍における地域・ルートの現状や今後の活動等について報告・情報共有を行った。



司会：開発連携推進課 鈴木企画官 (左)
開会挨拶：道路計画課 井上課長 (右)



資料説明：道路計画課 宮崎調査官



閉会挨拶：開発連携推進課 林課長



▲オンライン会議の様子

1. 会議・委員会の開催状況



Scenic Byway HOKKAIDO

③ブロック会議

◇道央・道南

- 日時：令和2年9月30日(水) 14:30～16:00
- 場所：現地・オンライン併用開催（千歳支笏湖市民センター）

- (1) 本格運用に向け、各ルートにおける「秀逸な道」の検討状況について意見交換
- (2) 「いまこそ、シーニックバイウェイ」と題してワークショップを開催



◇道東

- 日時：令和2年10月16日(金) 14:00～17:00
- 場所：現地・オンライン併用開催（各開発建設部等）

- (1) 本格運用に向け、各ルートにおける「秀逸な道」の検討状況について意見交換
- (2) 各ルートの活動状況報告・意見交換
- (3) シーニックカフェ・デッキの知名度向上策について意見交換



◇道北

- 日時：令和2年10月28日(水) 15:00～16:00
- 場所：現地・オンライン併用開催（各開発建設部）

- (1) 本格運用に向け、各ルートにおける「秀逸な道」の検討状況について意見交換
- (2) 各ルートの活動状況報告・意見交換
※会議終了後、道北ルート連携フォトコンテストの審査を実施



1. 会議・委員会の開催状況



Scenic Byway HOKKAIDO

④第22回ルート審査委員会

- 日時：令和2年10月28日(水)
- 場所：書面開催

議事内容

- (1) シーニックバイウェイ「秀逸な道」制度要綱（案）について
- (2) 包括的連携と協力に関する協定の審議
⇒ クリプトン・フューチャー・メディア(株)

審査結果

上記2点について問題なし

⑤ルート視察

- 札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山溪ルート：6月予定
- 大雪・富良野ルート：9月予定

⇒ 共に令和3年度に1年程度延期とした

2. 各種イベントの開催状況



Scenic Byway HOKKAIDO

北海道まるごとフェアinサンシャインシティ2020 (東京/池袋)

■ 令和2年10月9～11日



パネル展示



タブレット端末を活用し、密にならないアンケートの工夫



チ・カ・ホ「秀逸な道」PR (北1条イベントスペース)

■ 令和2年10月23～30日



密を生じさせないパネル展示

四季を彩るパネル展in札幌ドーム

■ 令和2年10月29日～11月1日



ファイターズ協力のもと、四季折々の雄大な景観を展示

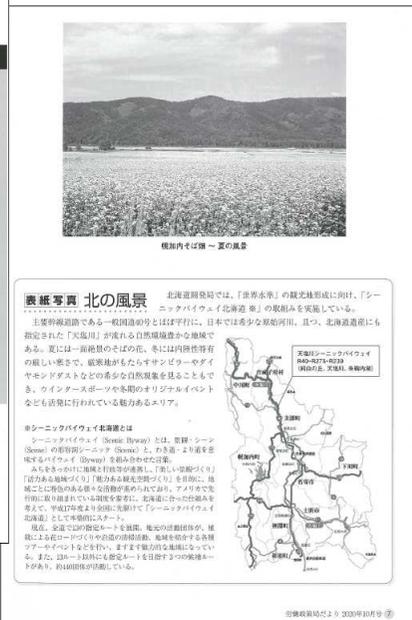
3. 関係機関等との連携取組事例(1)



Scenic Byway HOKKAIDO

◆北海道経済連合会との連携

- ◇北海道経済連合会との連携で、会報誌「労働政策局だより」の表紙にシーニックバイウェイ「秀逸な道」の景観写真を掲載し、裏面には、表紙写真の秀逸な道の景色を紹介。
- ◇2019年1月号から2年間程度掲載予定
- ◇北海道経済連合会会員企業・団体、各行政機関、全国の経済団体へ配布(約700部)



▲ 掲載内容

◆NEXCO東日本北海道との連携

- ◇高速道路と一般道路の双方を活用したドライブ観光の促進の取組として、ドラ割「北海道観光ふりーぱす」利用者を対象に「シーニックカフェ」や「シーニックバイウェイ北海道」の各ルートお勧め施設へ寄ると特典サービスが受けられる企画を実施。
- ◇北海道スマホスタンプラリーの立ち寄り施設として、シーニックバイウェイ各ルートがお勧めする絶景ポイントを登録
- ◇北海道ハイウェイShowArea2020(9.5-6、輪厚PA)へ支笏洞爺ニセコルート、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ、トカプチ雄大空間が出店し活動をPR



▲ 出店の様子(釧路湿原・阿寒・摩周SBW)

3. 関係機関等との連携取組事例(2)



Scenic Byway HOKKAIDO

◆環境省北海道地方環境事務所との連携

- ◇支笏洞爺国立公園内において、国立公園支笏湖運営協議会メンバーも含め、453(ヨゴサン)530(ゴミゼロ)キャンペーンを実施。
- ◇シーニックバイウェイ北海道 支笏洞爺ニセコルート ウェルカム北海道エリアの「秀逸な道」試行区間や支笏湖湖岸の清掃活動について、約100人が参加し、約70kgのゴミを収集した。

▼開会式の様子



▲ マスクを着用しつつ行われた清掃活動状況



▲ ゴミの収集状況

◆一般社団法人日本自動車連盟との連携

- ◇JAF会員機関誌「JAFMate北海道ページ」において、2020年4月号より2年間(計20回発行)、「秀逸な道」や周辺のおすすめスポット、絶景ポイント等を紹介。
- ◇現在、2020年4月号から11月号まで、7ルート(函館、札幌、ウェル北、天塩川、知床ねむろ、ニセコ羊蹄、萌天)について掲載済み。
- ◇12月号は南十勝を掲載予定。以降順次全ルートを掲載するよう準備中。



▲ JAFMate(2020.5月号)



▲ 北海道ページ(2020.5月号)、札幌シーニックバイウェイの例

3. 関係機関等との連携取組事例(3)



Scenic Byway HOKKAIDO

◆北海道日本ハムファイターズとの連携

- ◇シーニックバイウェイ北海道と北海道日本ハムファイターズ、「道の駅」の連携企画を実施(継続)
- ◇毎年4万人以上が参加する北海道「道の駅」スタンプラリー2020に『ファイターズ賞』の設定
- ◇特別連携企画に賛同いただいた道の駅において、限定コラボグッズの販売(68駅)、今年度は大人気の限定亚克力キーホルダーのほか、マグネットが新登場。
- ◇「道の駅」でファイターズのユニフォームを掲示、着用するなど、取組を相互に盛り上げ
- ◇ファイターズの協力のもと、札幌ドームのコンコースでシーニックバイウェイのパネル展を実施



▲ 道の駅スタンプラリー2020での広告



▲ 「道の駅」でのユニフォームの掲示



(株)北海道日本ハムファイターズ×道の駅×シーニックバイウェイ北海道



▲ 札幌ドームコンコースでのパネル展

◆北海道地区「道の駅」連絡会との連携

◇道の駅スタンプラリーとの連携(継続)

- ・プレゼントに『シーニック賞』を設定
- ・シーニックバイウェイ北海道及びシーニックバイウェイ「秀逸な道」の紹介
- ・プレゼントに『秀逸な道』賞の設定
- ・全駅完全制覇者を対象とした秀逸な道に関するアンケート協力
- ・シーニックドライブマップにおいて2020道の駅マップを活用



▲ シーニック賞、秀逸な道賞の設定



▲ シーニックドライブマップ



▲ 秀逸な道紹介、アンケート

3. 関係機関等との連携取組事例(4)



◆(株)ACTNOWとの連携

◇支笏洞爺ニセコルート取組である「千歳ウェルカム花ロード(18年目)」において、花苗の購入資金の確保の為、クラウドファンディングを実施



▲シーニック特別連携企画広告掲載

◆北海道銀行との連携

◇北海道銀行の131店舗(道内129店、道外2店)においてシーニックバイウェイ「秀逸な道」の走行動画を発信(令和2年7月10日～9月30日まで)



◆総合商研(株)との連携

◇北海道発掘マガジン「JPO1」(季刊発行、5万部)で、シーニックバイウェイ北海道通信として、SBW各ルートの取組を掲載。



◆クリプトン・フューチャー・メディア(株)との連携

◇北海道を応援するローカルプロジェクト「Domingo」でシーニックバイウェイ北海道の情報を定期的に発信(月1～2回)



▲シーニックバイウェイ情報の発信

3. 関係機関等との連携取組事例(5)



Scenic Byway HOKKAIDO
シーニックバイウェイ北海道、
「わが村は美しくー北海道」運動、
「かわたび北海道」がコラボ！

清流尻別川で地域が連携！「尻別川クリーン作戦」

【概要】清流日本一に何度も選ばれて、たくさんの動植物が生息している尻別川での清掃活動。平成7年から始まり、今年で26回目を迎えた取り組み。今年も、コロナ禍により開催が危ぶまれたが、感染症対策等を施し通常の3ヶ月遅れで実施。町内外から約300名にご参加・ご協力いただき、約25km区間を、徒歩で河川敷を清掃する班、カヌー30艇とラフティングボート8艇等を使用して河川流域を清掃する班に分かれて清掃活動を行い、2トントラック2台分のゴミを収集。

【日時】令和2年9月26日(土) 9:00~12:00

【場所】尻別川ランラン公園、目名川橋下流、御成橋付近、港地区ほか

【主催】蘭越町・NPO法人しりべつリバーネット

【参加人数】約300名



第26回 尻別川クリーン作戦

2020年 9月 26日(土)

9:00~12:00 (小雨決行)

蘭越町尻別川ランラン公園

8:50集合 詳細は裏面をご覧ください

新型コロナウイルス感染症対策として、マスクの着用をお願いします。 ※当日、37度5分以上の熱がある場合はご参加できません。

参加お申し込み方法 お申し込み期限 / 2020年9月24日(木)17:00まで受付

参加希望者氏名(団体の場合は代表者氏名)・住所・参加希望人数を蘭越町役場へご連絡ください。

蘭越町役場 総務課 小くり推進係

TEL 0136-5-1111 (内線231)

主催: 蘭越町、NPO法人しりべつリバーネット
後援: 尻別川流域管理委員会、小樽市環境部、北海道環境政策推進課、青森県環境部、岩手県環境部、秋田県環境部、山形県環境部、福島県環境部、宮城県環境部、茨城県環境部、栃木県環境部、群馬県環境部、埼玉県環境部、千葉県環境部、東京都環境部、神奈川県環境部、新潟県環境部、富山県環境部、石川県環境部、福井県環境部、山梨県環境部、長野県環境部、岐阜県環境部、静岡県環境部、愛知県環境部、三重県環境部、滋賀県環境部、京都府環境部、大阪府環境部、兵庫県環境部、奈良県環境部、和歌山県環境部、徳島県環境部、香川県環境部、愛媛県環境部、高知県環境部、福岡県環境部、佐賀県環境部、長門県環境部、大分県環境部、熊本県環境部、鹿児島県環境部、沖縄県環境部

新型コロナウイルス感染症対策の記載

4. 各ルートにおけるWithコロナの取組



Scenic Byway HOKKAIDO

○北海道スタイルを実践しつつ、「人の輪」を維持し、地域づくり等の取組を工夫しながら進めるとともに、ウィズコロナ時代を踏まえたドライブ観光の促進等の取組が開始

北海道スタイルによるルート活動

■マスク着用でソーシャルディスタンス確保に配慮した活動



道の駅「あしよる銀河ホール21」周辺での花植活動
(十勝シーニックバイウェイ十勝平野・山麓ルート)



清掃活動
(萌える天北オロロンルート)



清掃活動
(知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイ)

ウィズコロナ時代を踏まえたドライブ観光の促進

■地域からのウィズコロナ時代のドライブ観光の提案

人の少なさと広大な土地を活かした地域ならではのドライブ観光をPR(知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイ)



4 ジモトナタビの楽しみ方

ルート内には、密にならないところにいい景色が待っている

- ・大切な人と、ゆったりした時間を過ごそう
- ・二人だけのお気に入りの場所を探そう
- ・静けさの贅沢を味わおう
- ・波の音や鳥の声に耳を澄まそう
- ・頬に当たる風を感じよう
- ・広い空、広い海を見ながら、深呼吸してみよう
- ・アウトドアでテイクアウトグルメを楽しもう

当ルートでは、そんな場所がきっと見つかる6つのモデルルートをご用意しました！



5. 座談会『シーニックバイウェイ2040～北海道の未来につなぐもの～』開催概要

○With/Afterコロナの新しい考え方や動きが始まりつつあるなか、シーニックバイウェイを作り、育ててきた5人が**20年後を見据えたシーニックバイウェイ北海道が目指すべき方向性**について座談会形式で意見交換

○**人と人のつながり、地域と観光の関係性、次世代への継承、制度の見直し、ドライブ観光促進**等を幅広く議論

日時：2020年10月15日(木) 10：00～12：00 場所：北海道開発技術センター（オンライン同時配信）

石田東生氏



ルート審査委員会委員
・筑波大学特命教授

- ・DXは重要だが、合理化して地域に住まなくてよくなると、地域コミュニティはどうなってしまうのか。**合理化により、その先より大きな課題にぶつかることがあるのではないか。**
- ・リアルでの人のつながりの重要性が再認識されるなか、**活動や食をともにするシーニックの価値がより高まっている。**
- ・シーニックの活動が道路協力団体制度の創設に繋がるなど北海道のシーニックは先進事例。**日本風景街道においても北海道の取組を全国に展開してほしい。**
- ・G7で予算を含む投資計画が無いのは日本だけ。未来を語らないと地域の元気を損なう。**シーニックには未来を語る場の役割もある。**
- ・3つのH（Head（知識）/Hand（技術）/Heart（心））のうち、**Heartをどう伝えるかが教育の重要なポイントであり、大変難しいけど、シーニックでは進みつつある。**
- ・実践なきビジョンは寝言。シーニックはまさしく実践の場。組織・制度に頼ることも大切。一方で人なき制度も寝言。**みんなでアタマを使うことが大切。明るく、楽しく、前向きに。**

小林英嗣氏



ルート審査委員会委員長
・北海道大学名誉教授

- ・2021年世界経済フォーラムのテーマは「The Great Reset」。地域の人と観光がむすびつく条件である**FECT（Food-Energy/Education/Ecology-Care/Cure-Traffic）の全体を見ながら、地域における観光の取組もよりよく作り直すことが必要ではないか。**
- ・昔は地域に財産区があり、住む者の作法として共通財産である森、祭り、道等を守るための子どもの教育が存在。**シーニックも「秀逸な“みち＝タオ”や森等の財産を育て伝えていくべき。**
- ・世界が同時に体験する危機COVID-19をどう次の価値観に繋げるか。例えば**観光と環境のマッチングを進めるべきではないか。**
- ・光景・風景・情景を合わせたものが景観。**幅広い景観を意識しながら各地域でシーニックに取り組んでほしい。**

原文宏氏



シーニックバイウェイ支援センター代表理事

- ・継続は大きな力であり、シーニックも知られてきた。**これまでの取組みを広げて、社会に実装することが大切。**
- ・20年後を見据えると地域づくりを子供たちに感じてもらうことが必要で、その先行事例として南十勝夢街道の学校シーニックは重要な取組み。**ほっかいどう学と連携して、「教育」に力を入れていくべき。**
- ・自分を含めて次世代への「継承」について考える必要。シーニックは活動だが、（郷土愛に基づく）運動であり、思想かもしれない。20年後には文化になる。**地域も、開発局を含めた運営側も継承していかないといけない。**
- ・With/Afterコロナでも取り組むべき基本的なことは変わらない。**これからどう変わっていくべきかはみんなと話しながらか一緒に考えていきたい。**

和泉晶裕氏



シーニックバイウェイ支援センターボランティアスタッフ

- ・15年間で多様な活動が根付いた。人口減少は進むが、**少ない人口でも連携して、地方が生き抜くことが必要。**
- ・ルートコーディネーターの重要性は変わらないが、独自の収入を確保できない中では、**法人としての支援センターの必要性を再検討すべき。**
- ・当初からのルートは義務教育を卒業した段階。**制度として義務教育を卒業し、次ステップに進む選択肢を用意すべき。**次世代に引き渡したり、巻き込む契機になる制度が必要。ルートのニーズもある。
- ・観光客が喜ぶことは勿論、**観光客を受け入れることで地域も一緒に成長することが大切。**
- ・これから20年後を見据えていくには、**第三者委員会にも目指す方向に必要な若い人を加えていくべき。**

橋本幸氏



国土交通省北海道開発局建設部長

- ・道路整備等の推進により、諦め移住を無くし、**生産空間を含む全道各地に住み続けられるようにしたい。**
- ・重点的景観保全を通じて誘客のための目的地を作る「秀逸な道」を試行してきた。**本格展開にあたっては、地域の愛着を大切にしつつも、真に秀逸な区間を選定して、誘客に必要な観光資源としての質の確保も実現したい。**
- ・北海道観光のニーズはあり、密ではないことが今は価値になる。そして、安心な移動手段としてクルマへの期待がある。**シーニックと道の駅やサイクルツーリズムとの連携、デジタルでの情報発信等によるドライブ観光の促進を通じて、Withコロナ時代の北海道観光を支援。**
- ・活動団体があつてのシーニック。**開発局は政策目的を持ちつつ、地域と連携して取り組んでいきたい。**